

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K05853

研究課題名(和文)農村におけるwell-beingと農業効率化の関連性に関する実証分析

研究課題名(英文)An empirical study of relationship between well-being and efficiency in rural area

研究代表者

廣政 幸生(Hiromasa, Yukio)

明治大学・農学部・専任教授

研究者番号：00173295

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：農村の農業効率性とwell-beingに関し研究を行った。地域として明確な連携実績や活力があるような地域ほど幸福度(well-being)が高い傾向にある。農業・農村の持続可能性の評価はwell-beingによって可能であり、当該地域、関連人口のwell-beingが関係する。エシカル消費を意識したフレーミング、ナッジメッセージは有効である。ヒトの行動は、利己的ではなく、利他的であることを考慮すべきである。農地集積を進めるためには、アイデンティティと信頼の考慮が欠かせない。公平性には信頼を醸成しなければならない。畜産の規模拡大には地域との共存が欠かせず、信頼の構築が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

農業効率化は規模拡大で為されるが、それが成就するためには、非経済要因の考慮が欠かせないことを示した。また、効用に替わる指標としてwell-being(幸福度)の有用性を示した。これまで不十分だった農業、農村における社会経済要因の分析に大いに寄与している。また、これらの成果を考慮することで、より現実の問題に即した効果的な政策がなされ、農業・農村問題の解決への道筋を示すことができ、社会的意義も大きい。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the relationship between agricultural efficiency and well-being in rural area. 1)The more activity and longer cooperation with consumer in area is the higher score of every well-being indicator. 2) Sustainability of rural and agriculture is able to be evaluated by the concept of well-being. 3) In terms of sales strategy, the framing and nudge message about environment, animal welfare is effectiveness. 4)About consumer's food buying behavior, it's important to consider the character of altruistic. 5)Non-economic factors (identity and trust) are crucial importance in case of farmland accumulation. 6) In case of enlargement of cattle farm, it's need to realize the coexistence and to build trust with the farmers and non-farmers in the rural area.

研究分野：農業経済

キーワード：well-being 非経済要因 アイデンティティ 信頼

1. 研究開始当初の背景

わが国は TPP11 を受け入れ、いずれ完全な自由貿易の状況下になると予想され、農業生産は今以上に輸入農産物との競争に晒されることになる。一方で、農村においては、人口減少の加速化、高齢化が進展し疲弊感が増すばかりである。わが国の農業が生き残るためには、効率化(規模の拡大等)が必須の条件であるといわれる。しかしながら、疲弊する農村の状況下で、どのようなことを為せば良いのか。経済条件を考慮するだけでは不十分であることは、これまでの農地集積の研究より知られている。しかし、非経済要因をどのように分析するかは十分にはなされていない。

2. 研究の目的

わが国の農業、農村が残存するために、疲弊感が増す農村で、効率化(規模の拡大等)をどう進めればよいのか、可能な要件を非経済要因に焦点を当て、見いだすことが研究目的である。より現実的に、エコノミクスとしてのヒトではなく、ヒューマンとしてのヒトの行動を想定し、農業効率化を図ること、それは農地の集積、法人化、共同化、販売を進めることに他ならないが、農村の well-being とどのように関係するのか、高めるのだろうか。逆に、well-being を高める効率化はどう進めればよいのか、非経済要因を明確にしながらか検討することである。

3. 研究の方法

- (1) 幸福度 (subjective well-being) の概念と指標化の検討について、効用理論との関係を検討するため、古典派以降、新古典派、行動経済学に至る主要文献のサーベイを行った。
- (2) 幸福度 (subjective well-being) 指標を作成し、3 地域の町、市の農村部を対象に、集落ごとのアンケート調査を実施した。アンケートを回収後、各指標のスコアを幾何平均算出して、対象地域間の平均スコアについての考察及び統計処理をして、比較、検討を行った。
- (3) 農業・農村の持続可能性の概念と幸福度 (subjective well-being) の概念の整合性について、Sustainable Development の起源以降の関係する文献のサーベイを実施した。
- (4) 販売戦略について、エシカル消費を進める事例を分析した。また、機能性食品の購買行動について、ナッジメッセージを含む選択実験を行い、差別化戦略を考察した。
- (5) 消費者が利己的、利他的な購買行動を取るかどうかについて、web アンケートを実施し、多変量解析 (主成分分析) で利己要因、利他要因を抽出し、購入パターンで検証した。
- (6) 農地の集積に関する意向を分析するために、アイデンティティ経済学の理論、山岸の信頼理論に基づくアンケート項目を設定し、ラダリング法より基盤整備事業対象農家の悉皆調査を実施し、結果を分析した。
- (7) 大規模畜産農家の市場出荷データより、主体間関係の存在を見だし、当該農家へのヒアリングを実施した、ラダリング法による要因の解明を行った。

4. 研究成果

- (1) QOL、well-being の理論、概念整理と検討について、Subjective well-being として幸福度をとり上げ主観的幸福度と効用理論の関係性 について、A.Smith 以降の経済理論、効用理論について検討した、新古典派以降の効用理論は数学化し意味が矮小化して関連性がなくなることを示したが、A.Sen のケープビリティ概念とは整合性がある。(廣政 (2019))
- (2) 主観的幸福度指標の実証と地域間比較、幸福度指標の集落アンケート実施した 3 市町村

について、主観的総合幸福度、幸福度要因、生活満足度の各項目の数値を統計的な検定を行い、比較、考察した。地域として、明確な特産物や産消連携の組織的取り組みを長年やっていて、活力がある地域ほど、総合的な幸福度は高く、幸福要因、各種の生活満足度も高くなることが明らかとなった。(廣政(2019))

(3) 農業・農村の持続可能性(Sustainable rural area, Sustainable Agriculture)の評価は、経済、社会、環境の3つのトライアングル評価で行えることを示し、効用に代わる well-being による評価となること。その評価は、当該地域の農家及び非農家の住民、また、多面的機能を楽しむ関係人口の well-being が向上にあることを示した。(小田切・中嶋(2022)、廣政(2022))

(4) 近年のエシカル消費の意識の高まりは、well-being の観点から主観的な生き方に関わるため重要となる。環境、動物福祉等に配慮した農産物の販売は共感を呼ぶフレーミングなどによって強化できる。機能性等の農産物販売はナッジメッセージが有効なことを選択実験より明らかにしバックキャスト思考が重要であるとした。(岡(2022)、中嶋(2022))

(5) ヒトの購買行動は必ずしも利己的ではなく、利他的も十分に配慮しているため、応援消費ができるアピールが重要である。(投稿中)

(6) 農地集積は経済効率性の追求であるが、非経済要因の考慮が不可欠である。アイデンティティ経済学の概念を用い、また、信頼は幸福度の規定要因であり、効率性を引き出す要因であることから、山岸のフレームワークを用い、貸し手と借り手の実証分析を行った。経済合理性を凌駕するイエ規、ムラ規があり、能力と意図に対する信頼が検証され、農地集積に影響を与えていること。イエ規、ムラ規の行動基準と自己利益のバランスが公平性を生み出していることを示した。(井上・廣政・中嶋(2021))

(7) 大規模畜産農家の存立要因は、経済効率だけでなく、地域との共存は避けられないこと。つまり地域の well-being の形成に役立つかを考慮することなしに経営効率化がないこと。市場販売でも相手を意図、信頼しない販売はないことを示した。(井上・廣政・中嶋(2022)) 以上のように規模拡大により効率化を図るためには、非経済要因の考慮が欠かせないことをヒューマンの行動から示した。また、規模拡大を為した経営体がどのような販売戦略をとれば良いかも示した。効用に替わる well-being (幸福度) の概念付け、指標化、適用可能性についても示した。

引用文献

廣政幸生「農村における幸福度の形成と要因に関する分析」明治大学社会科学研究所紀要 49-61 (2019)

廣政幸生『持続可能性と食、農、農村』廣政幸生編著「持続可能性と環境、食、農」日本経済評論社 1-22 (2022)

井上賢哉・廣政幸生・中嶋晋作「農地取引における非経済要因に関する分析」農業経済研究 93(1) 53-58 (2021)

井上賢哉・廣政幸生・中嶋晋作「和牛子牛市場における取引と価格形成-セリ取引データを用いた主体間関係、血統、価格の分析-」農業経済研究 93(4)413-418(2022)

中嶋晋作『食ビジネスと持続可能性』廣政幸生編著「持続可能性と環境、食、農」日本経済評論社 153-170 (2022)

小田切徳美・中嶋晋作「ポストコロナ社会の食料・農業・農村：持続可能な社会をデザインする」農業経済研究 93(2) 121-131 (2022)

岡通太郎『エシカル消費を楽しんでもらう3つの工夫 - 共感・互恵性・経験 - 』廣政幸生編

著「持続可能性と環境、食、農」日本経済評論社 79-97 (2022)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 長尾真弓 廣政幸生 井上賢哉	4. 巻 29
2. 論文標題 都市におけるジビエ消費の実態と消費意向に関する分析 首都圏の飲食店を対象に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 フードシステム研究	6. 最初と最後の頁 219-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上賢哉 廣政幸生	4. 巻 95
2. 論文標題 不確実性下における和牛繁殖農家の血統選択に関する意思決定分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上賢哉・廣政幸生・中嶋晋作	4. 巻 93(1)
2. 論文標題 農地取引における非経済要因に関する分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小田切徳美・中嶋晋作	4. 巻 93(2)
2. 論文標題 ポスト・コロナ社会の食料・農業・農村：持続可能な社会をデザインする	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 121-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上賢哉・廣政幸生・中嶋晋作	4. 巻 93(4)
2. 論文標題 和牛子牛市場における取引と価格形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 413-418
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長尾真弓・井上賢哉・廣政幸生	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 エゾシカハンターの意識と行動の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治大学農学部研究報告	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 廣政幸生	4. 巻 58
2. 論文標題 農村における幸福度の形成と要因に関する分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治大学社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Michitaro OKA	4. 巻 21
2. 論文標題 Agrarian Transformation in Central Gujarat from 2003-18: Cropping Pattern, Land Tenancy, and Labor Patronage,	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 INDAS South Asia Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾真弓・廣政幸生・中嶋晋作	4. 巻 91
2. 論文標題 ジビエの消費行動の変化とその要因に関する定量分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 278-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 井上賢哉・廣政幸生
2. 発表標題 和牛繁殖農家における血統選択の意思決定に関する分析
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小田切徳美・中嶋晋作
2. 発表標題 ポスト・コロナ社会の食料・農業・農村 持続可能な社会をデザインする
3. 学会等名 日本農業経済学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 .Michitaro OKA
2. 発表標題 Agrarian Transformation in Central Gujarat from 2003 - 2018: Cropping Patterns, Land Tenancy, and Labor Patronage
3. 学会等名 AESJ(Agricultural Economics Society of Japan)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上 賢哉、廣政 幸生、中嶋 晋作
2. 発表標題 和牛子牛市場における取引と価格形成 - セリ取引データを用いた主体関係、血統、価格の分析 -
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋晋作・菊島良介・廣政幸生
2. 発表標題 時間選好率および危険回避度が保健機能食品の購買行動に与える影響
3. 学会等名 日本フードシステム学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上賢哉・廣政幸生・中嶋晋作
2. 発表標題 農地集積における非経済要因に関する分析 I地区S牧場を対象としたアイデンティティと信頼の分析
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中嶋晋作
2. 発表標題 農地集積のメカニズムデザイン エージェント・シミュレーションによるアプローチ
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾真弓・廣政幸生・中嶋晋作
2. 発表標題 ジビエの消費行動の変化に関する分析
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長尾真弓・廣政幸生・井上賢哉
2. 発表標題 エゾシカハンターの意識と行動の分析
3. 学会等名 日本農業経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中嶋晋作
2. 発表標題 行動経済学とマーケティング
3. 学会等名 フードシステム学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 廣政幸生 中嶋晋作 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 804
3. 書名 農業経済学事典	

1. 著者名 廣政幸生 岡通太郎 中嶋晋作 他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 278
3. 書名 持続可能性と環境・食・農	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中嶋 晋作 (Nakajima Shinsaku) (00569494)	明治大学・農学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	岡 通太郎 (Oka Michitaro) (70402823)	明治大学・農学部・専任准教授 (32682)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長尾 真弓 (Nagao Mayumi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------